

## 照明探偵団倶楽部活動1 / 研究会サロン ( 渋谷 照明探偵団事務局) 報告

990903 第8回照明探偵団倶楽部・研究会サロン  
夏休みも終わり ( ? ) 9月に入って行われた  
研究会サロン。夏の思い出を持ち寄ろう、  
ということで団長から夏のサンタモニカの  
レポートがありました。ポール・ゲッティ  
の巨万の富で作られたゲッティ美術館、陽  
光溢れるサンタモニカの海岸、アーティスト  
である五十嵐威輔さんの自邸など、様々  
なスライドと共にロサンゼルスへの旅のレ  
ポートが披露されました。その後、8 / 25  
~ 31 に六本木のアクシスギャラリーで開  
催された「あかりメッセージ」展について  
田中智香氏よりレポートがありました。あ  
かりメッセージは、450mm 角の箱の中に、  
デザイナー、クリエイター達がそれぞれ



「あかり」をテーマにメッセージ性のある作  
品をつくるもので、今年のテーマは「シー  
ン [ SCENE ] ひとつの箱にふたつのイ  
メージ あかりのクリエイターたちが創っ  
た、あかりのアートワーク」ということで、  
数十人の作品が展示されました。「ふたつの  
イメージ」ということで、作品に触れたり  
何かのアクションを起こすと光が点灯・消  
灯するなど、ONとOFFを使ったシーンの  
転換を図る作品が多かったようです。  
今回のサロンには、前回のサロンで大隈氏  
より紹介があった、「小さな照明器具」の作  
者である金井一郎さんが出席して下さい  
ました。金井さんは、紙に針のようなもので  
小さな穴を空けながら点描した繊細な影絵  
を描いている方で、その作品をギャラリー  
に展示するにあたり、展示に影響のない小  
さな照明器具を手作りで作り始めたのが  
きっかけ、とお話下さいました。もと  
もと写真を撮られる方で、たくさんの影絵  
の写真と共に植物を使った小さな照明器具  
もたくさんお持ちいただき、参加者はすっ  
かりそれらに魅了され、釘付けにされてし  
まいました。影絵も照明器具も、とても繊  
細で手が込んでいて、また手作りの暖かさ

とほんわかとしたやさしさが、温かな  
金井さんの人柄がそのまま映し出されてい  
るようでした。

( 田中裕美子 )

上 サロン風景  
下 金井一郎氏



## 照明探偵団倶楽部活動2 / 研究会サロン ( 渋谷 照明探偵団事務局) 報告

991207 第9回証明探偵団倶楽部・研究会サロン  
1999 年第9回、とミレニアムをひしひし感  
じつつ、30 余名の団員が参加、今サロンも  
大賑わいとなりました。最近の MUST  
CHECK な光、ということで、話題のビーナ  
スフォートを面出団長とあかり談議。クリ  
スマスなシーズンがら、よりゴージャスな  
イルミネーションのビーナスフォートの映  
像が、坂尾団員と戸恒団員からプレゼント  
され、会場一同見入る、見入る。

照明探偵団に東京の夜景 10 選の執筆が依  
頼され、雑誌「東京人」に掲載されました。  
サロンではその報告と、リサーチ時のビデ  
オも上映され、紙の上とはまた一味違った  
夜景をみることができました。

コンペで優勝した相澤学さんからは、作品  
のプレゼンテーションがありました。震災  
時でも身近にあるもので簡単につくれる、  
持ち運び可能なチベットのバオ風 10 人収  
容可能な丸い竹製テント。竹の骨組みが特  
徴的です。照明と一体なんの関係が? って  
これ、サブタイトルは人間走馬灯なのだそ  
うです。

( 田中智香 )

左上: サロン風景  
右上: ヒカリモノ  
下: 相澤比津世氏



# 新選東京名所案

雑誌「東京人」の寄稿にあたり、坂尾、戸恒、田中 裕)の3名が独断と偏見で新東京夜景10

## ●パレットタウン

都内有数の館を誇っていたお台場にまた新しい光が現われた。新橋から臨海副都心の新交通ゆりかもめに乗ってレインボーブリッジを渡ると、花火のような光を発するモノが遠くに見える。青海駅前のパレットタウンと呼ばれる仮設複合商業施設にある大観覧車である。その大きな車輪状の構造体に装飾された無数のネオン管は、10分間1サイクルのオペレーションプログラムの中でめまぐるしく光が変化し、様々な表情を周囲に振り撒いている。光る大観覧車と言えば横浜にあるコスモクロックが思い出されるが、こちらの方が周囲にあまり光がないため一層際立って見える。幻の都市博の跡地利用計画が滞っている中、暫定とはいえその派手な光はベイエリアを彩る花として、隣接している商業施設の効果的な看板となっている。坂

## ●品川インターシティ

品川駅東口再開発地区に出現したオフィスビルの景観がわりと品よくまとまっている。3つの超高層とそれらをつなぐ歩行者大空間により構成されているが、内2棟の高さを強調するかのように伸びる縦ラインを強調したライトアップは、地味ではあるが不快感を与えない効果的な手法である。良く見るとこの部分は各階トイレの廊下となっており、ワーキング空間の白い光とは色温度の違う電球色蛍光灯により連続的に天井を照らし上げている。天井は窓側に向かって斜めにサリ上がっており室内の間接照明の効果と、遠景から見られることの両方を考慮したことが伺える。空間の機能の違いをデザインに結び付けた良例である。山の手線からでも確認できるランドマーク的な景観は、パブル崩壊後の都市再開発を模索する先駆けとして、今後の周辺の開発を促しながらおとなしくたたずんでいる。坂

## ●東京国際フォーラム

どこからアプローチしても、圧倒される建物である。視線を捕らえるファクターが次々と現れるのだ。外構に敷かれた光床の上ではその不思議な浮遊感を味わえる。足の下に床があるような、ないような。いつか見たSF映画やアニメのワンシーンが思い出され、そのまま思い込まれてしまいそうになる。ガラスホールに降り立つと、床埋込のウォールウォッシュで照らされた、高く長い壁面に誘導される。壁面を見上げるとそのまま視線はアトリウムに浮かぶ構造体へ。この巨大な構造体は高照度のフラッドライトで照らし上げられているのはなく12V 75Wのスポットライト数百台で丹念に照らされているため、大きいわりに落ち着いて見える。中空をダイナミックにブリッジが走り、ガラスで覆われた巨大な空間の中でスケール感が失われてしまう。この空間の中で照明器具はあまり目につかない。もっと視点を大きくして見れば、建築自体がそのまますの照明器具と化していることに気が付くのだ。田

## ●JR新宿駅南口

アルタや百貨店、歌舞伎町の出入口である北口とは対照的に、裏切られての悲しい雰囲気を漂わせていた南口はもう昔の話。97年に姿を見せたタカシマヤタイムズスクエアを皮切りに、サザンテラスとその周辺のビルがリニューアルされ、かつて古びた街であった角地にフラッグスが立ち上がり、今や新宿南口はファッションセンスに溢れた商業エリアとして定着した。閉じた外観をライトアップするという百貨店建築の常識

を打ち破り、タカシマヤタイムズスクエアは内部のエネルギーギッシュな光を光源とした都市の行灯となつて、今もなお南口の中心で活躍中である。発光する正方形の窓をひとつひとつ見てみると、段ボールの影や店員の人影で、様々な店舗の舞台裏を観察することができて意外と楽しい。数多くあるビューポイントでの一番のお勧めはタカシマヤタイムズスクエアとサザンテラスを結ぶブリッジからの眺め。小さな我々を吸い込む半宙船のような圧倒的な存在感を味わうことが出来る。戸

## ●アニヴェルセル表参道

表参道沿いの新築ラッシュがめざましく、国道246号との交差点付近も建物のリニューアルが立て続いている。そのひとつがアニヴェルセル表参道「記念日」がテーマの専門店である。パリのメゾンイメージしたというファサードは、淡いページュの壁と赤と白のテントがフラッドライトで照らされていて、明るく華やかな印象だ。一階のカフェは通りに面してはいるが、間接照明、ピンホールダウンライト、さらにタペストリーガラスを透過した柔らかな光によって落ち着いた雰囲気にとまとまっている。それに比べカフェの奥にあるウォール天井のバサージュは明るく照らされていて、奥への期待をかき立てられる。街路から眺めると、建物全体の室内に満ちた光がアールのついた窓から溢れ出ているように見える。品良くデザインされたヨーロッパ風の建築と溢れる光。希望と明るい未来を抱え結婚を控えた二人には、その何倍にも光り輝いて見えるのではないだろうか。田

## ●原宿駅前

原宿駅に降り立つと、大きな音と共にせわしく動く光が目にはいつく。またもや街中に巨大スクリーンが現われた。約10メートルx6.7メートルはあるだろうか。世の中にはもっと大きなものは少ないが、ここでは設置位置が低いのと前面道路も広くないことから、そのあふれる映像の情報もさることながら発する光の影響が特に目立つ場所である。対面する原宿駅舎はさながら舞臺照明かのように照らされたかのようにその表情を映像によって変えられ、待ち合わせをする人々もその風景に巻き込まれている「コム・サ・デ・モード」が「スヌーピーハウス」と言ったまったく違った雰囲気の個性を発揮している店舗が隣接し、その間にこのスクリーンを持つ複合ビルの変は一見ミスマッチともいえるが、良くも悪くも現在の東京の一面を如実に映しだし、その様々な光景に虫が光に集まるように人が集まっている。坂

## ●パレ大森ブルミエール

大阪から東京へ戻る夜の新幹線で何気なく外を眺めていたら、品川駅の手前でオレンジ色に輝く光の壁が視界に飛び込んできた。正確には大井町と大森の間に線路に横たえて建てられた集合住宅である。別に煌々とライトアップしているわけではない。ごく普通の共用廊下の天井にごく普通の蛍光灯がついているだけだ。普通と少し違うのは、電球色の蛍光灯を線路側から見えない位置に取り付けていることである。そんなちょっとしたことで、廊下の壁面は間接照明の柔らかな光で照らされ、建物全体が輝くのだ。周囲の暗い閑静な住宅街の住民の中には迷惑に感じる人もいようが、照明器具の置き方の工夫次第で大きな光の効果を得られることを実証している建築として貴重な存在

だ。線路下をくぐり反対側の小径に出てみよう。パノラマに広がる輝く建物と共用廊下を往来する住民のシルエットの生きた光景が眺められて大変面白い。戸

## ●海ほたる

川崎側からのびるトンネルと、木更津側からのびる橋梁で構成される東京湾アクアライン。それらが交わる点に位置するサービスエリアが海ほたるである。海に浮かぶ船のイメージだ。駐車場への誘導はレイダクトチューブがオレンジ色のラインを描いている。サービスエリアといっても商業施設であるため、建物内はたくさんダウンライトやスポットライトでとても明るい印象だ。屋外のオープンデッキはフットライトを中心とした照明で、周囲の風景に邪魔にならないような光はほとんどない。アクア、海といった言葉から連想されるブルーが照明においてもイメージカラーである。ここで一番大切なのは、ここを訪れる時間帯である。海の真ん中に浮かぶため、日が暮れて夜になると周囲が真っ暗になってしまい物足りない。夕暮れ時、東京のあたりがともし始め、海が夕焼けに染まる頃がベストであろう。海に青く浮かぶ海ほたる自体を眺めてみたいが、立地の理由から難しい。田

## ●オベーク ギンザ

銀座中央通りの松屋の正面に、幅20m、高さ8mの光の壁が出現した。青味がかかった透明な光で満たされた寶石のようなファサードのデザインは、世界の第一線で活躍中の女性建築家・妹島和世さんが手がけたものだ。この二重構造の光壁は、外側のガラスに数種類の透過性能の異なるフィルムを貼り分けることで実現されており、注意すれば中央部から上下に行くと近い透過率が低くなっていることが分かる。二重構造の間の上下に設置された照明器具の存在感を小さくしながら、全体の透明感を削り出すために何度も実験を重ねたそうだ。ビルボードが立ち並ぶ銀座にあって光壁以外に何も装飾のないファサードは、かえってその存在を主張する。内包する複数のプティックのトータルイメージであるこの建築のあり方は、インテリアと都市とを媒介する有効な手法として斬新なものだ。銀座のみならず、未来の夜景のイメージを存分に我々に期待させてくれる。戸

## ●ヒルサイドウエスト

代官山ヒルサイドテラスは、一定のデザインコンセプトのもと、何期にもわたり徐々に拡大されてきた複合施設である。その中で一番新しいのがヒルサイドウエストだ。代官山から池尻方面へ旧山手通りを多くと、賑やかな街並みから閑静な住宅地に風景が落ち着いてくるところ、右手にふわっと現れる。通りに面した開口は15mほどしかないが、奥に深い構成となっている。一階のカフェは大きなガラスの開口部を持ち、通りから中が見える。開口部の前には前庭として光床があり、その下にあるレストランのトップライトになっている。細長いカフェの長手方向の壁にはラインの間接照明と照明が仕込まれたスリットが連続し、カフェ最奥のブルーに光る半透明ガラスも手伝って、視線が奥へと誘導される。カフェの左手は奥へ続く真っ直ぐなバサージュで、明るくウォールウォッシュされている。ヒルサイドテラスの雰囲気を十分に踏襲しつつ、光をうまく使って新たに落ち着いた軽やかさを身につけたようだ。田

# 団員からの照明情報

団員の方々から事務局に寄せられた照明探偵レポート情報を紹介します。

木下史青です。お元気ですか。ひさしぶりに照明探偵したのでレポートします。

99.10.16-10.27エジプトに出張してきました。来年の東京国立博物館での展覧会準備のための視察で、いまは冬、といっても昼は30度以上になってしまうカイロ、ルクソール、アブシンベル、アスワン、そしてアレクサンドリアへの道中でした。

「ナイルの異物 エジプト」にはNRTからマニラ、バンコク経由というルートで、砂漠の砂をかきわけて作られたようなカイロ国際空港に降り立つまで約27時間、けっこう長い空の旅です。エジプトはミレニアムに向け、空前の観光ブームだそう。特にスペイン、イタリアなどヨーロッパからの団体客が目立ちます。仕事で訪れたカイロのエジプト考古学博物館にも、ツタンカーメンの秘室を見るため、平日でもなかなかの盛況。さすがに展示用の光ファイバースポットをじろじろ眺める日本人は少なく、その黄金の魅力に皆、目もくらむ感じがします。

夜はギザまで車で30分飛ばしてスフィンクスと3大ピラミッド周辺で行われる光のショー・ソ



ン・エ・ルミエール」へと定番のコース。カラーライティングとレーザーで描かれたヒエログリフの壮大な演出。今、スフィンクスが明かす3000年のものがたり」に向かって賢明にシャッターを切ります。しかしルクソール・カルナック大神殿のショーのほうがスケールが大きいという噂です。

高所からの眺めは夜12時まで開いているカイロタワー(高さ187m)がおすすめです。展望台



のふきさらしの強風のなかで、悪い照明探偵の習性で自然に三脚をたてカメラをセットしてコダック400を2本3本と消費している自分ってなんだろうと思ったりします。カイロタワーはナイル川の中州であるゲジラ島にあり、この中州は高級住宅地&大スポーツパークになっており、プールやサッカー場、ゴルフ場などが集まる場所です。夜はいっそう、その街の構造が明確になります。川の向こうの街路照明は黄色いナトリウムランプが主流のようで、ほとんど信号のない町中



をクレイジーな運転の車がひっきりなしに飛ばしています。中州地域だけがブルーに輝くプールやサッカー場の緑がくっきりと浮かび上がって対照的です。



ナイル川からファラオな気分を味わいたい方には、ディナークルーズ・ベリーダンス付きが★三つ位で、なぜか豪州美人のベリーダンスとともに暮れゆくカイロの景色を眺めることができます。

ざっとカイロの夜景ポイントをご紹介しましたが、現在のエジプトはほとんどがアラブ・イスラム教の国であり、(一部はコプト教など)古代エジプトとは全く連続性がありません。イスラム教の光に接するにはムハンマド・アリ・モスクの内部空間内のシャンデリア、ランプ、ステンドグラスの盛りなず「アラブの光」を体験するべきでしょう。

木下 史青 キノシタセイ(展示デザイナー)  
東京国立博物館 学芸部企画課 展示調整室



左上: スフィンクスとピラミッド周辺の光のショー  
左中: 展示ケース内ファイバースポット  
左: ナイル川とカイロタワー  
上: 展示風景  
中: カイロタワーより中央左に光るのがプール  
下: モスク内シャンデリア



# 面出の探偵日記

照明探偵団ホームページにて連載中！

<http://www.bekkoame.ne.jp/~tanteidan/jtanteinikki.html>

ご意見・ご感想をお寄せ下さい

tanteidan@ppp.bekkoame.ne.jp

## ●第16号 99年11月24日 水曜日

おやおや、しまいにはヘリコプターまでやってきたみたいだ。ただ今、ヴァイマルからフランクフルトに向かうドイツの高速道路に立ち往生するバスの中。100m先には炎上、死亡を伴う大事故の現場が見える。完璧な道路封鎖に巻き込まれ、既に6時間もこのバスの中に閉じ込められているのです。こんな経験は、もちろん初めてです。

このバスに乗っている全員が予定の飛行機の出発時間に間に合わない。諦めているが皆が旧東ドイツの警察や消防ののろまな処理に飽き飽きしている。後ろの席では五月蝿い香港のおじさんがやり場のないイライラを隠さない。横の席ではイスタンブールに帰るトルコ人。そのほかにフィンランド人と、デンマーク人、スペイン人・・・など。来年の3月にフランクフルトで開催される照明の見本市[Light+Building 2000]のプレビュー・コンファレンスに参加した人たちだ。フランクフルトからの帰国便をことごとく再調整して、4~5時間も後の便を取り直したのだけれど、それでもなお、いつ道路が再開してくれるのかも解らない。私たちの世話をやいてくれているドイツのご婦人が可哀相。客に迷惑をかけているのは彼女ではないのに・・・。

おお、やっと開通の見込みを知らせるサインが送られてきた。辺りから大歓声が聞える。この分で行けば変更した夕方の便には間に合うはずだ。それにしてもこの辺の旧東ドイツの高速道路は舗装の質もよくない。東西の格差は完璧になくなってはいないことが解る。

フランクフルトで行われる[Light+Building 2000]の会議とプレスマーティングに出席した後に、ヴァイマル近くの Bad Sulza という田舎街に出現した Liquid Sound というリラクゼーション施設を訪れた。30度に温められた3%濃度の海水の中に身を浮かべ

ながら音と光の演出によるリラクゼーションに浸るといふもの。なかなかの考えられた施設で、挑戦的な課題に取り組んでいる。その真価については次回の探偵日記に報告予定。何しろ3泊4日の多忙な日程の最終日に、予定外の6時間ものバスの中での監禁状態。何事も経験、とは言ふものの、帰国後の詳細打合せ日程がガタガタだ。深く諦めることの大切さをきっちり学んだ1日でした。

991124 pm.2:30 somewhere in Germany

## ●第15号 99年11月21日 日曜日

またもや東京の喧騒を抜け出してきた。今はルフトハンザ機の中で、得意の懺悔と感想の時間に入っている。東京を離れるたびに、地上を離れて気持ちが無国籍になるたびに、ひたすら毎日走り続けている自分の姿が健気にも可哀相にも思えてくる。どうして私はこんなにも「お仕事」から離れ難くなってしまったのだろうか・・・？

いつものパターンにはまると、「明日からはやり方を大幅に変革して・・・」「自分の毎日を余裕をもって評価できるように・・・」「よし明日からは・・・」という風に言い聞かせる。つまり自分で選択している多忙に満足しているくせに不満足。典型的な欲張り型の二重人格としか言いようのない様である。

それでももう一度「来年の1月からは生活のリズムを換えますぞ〜」。

すっきりしました。

昨日(11月20日)で2カ月におよぶ展覧会「面出薫+LPA展・建築照明の作法」が終了した。「やっと終わったか」というほっと肩の荷をおろした安堵感とともに、1990年にLPAが設立されてからの10年が区切られたような空虚な感覚にも捕らわれる。この展覧会では私たちLPAや照明デザイナーの生

きざま、手の内を隠すことなく紹介したので、自分自身のかんまりの気持ちがりセットできたに違いない。これまでに皆と一緒に鍛えてきたつもりのも、あっけらかんと露呈してしまった今となれば、もっと早く脱ぎ捨てるべき宿便のようなものだったのかも・・・。いずれにしても身が軽くなった快楽を得たことは何よりの収穫だ。

およそ2カ月のギャラリー間の展覧会には、4000人を越える方々がいらしていただけたようで、一昨日に行った「ギャラ間+LPA関係者感謝パーティ」は和やかな笑顔に溢れていた。TOTO出版の展覧会記念の本・ギャラリー間叢書「建築照明の作法」も予想以上の善戦で売れているようだ。

私が何より嬉しかったのは、展覧会の会場を訪れるたびに、真剣なまなざしの若い人々を多く見かけたこと。会場に置かれた大きな丸テーブルや長いカウンターも功を奏した様子で、時間を掛けて一生懸命にメモをとったり、レジメの内容をノートに写し取ったりしている。壁に貼られた私たちのスケッチをカメラに収める人もいる。たまたま会場に未だ私を見かけると、色々な質問がとんでくる。

これは展覧会場だけでなく、ワークショップ会場のような雰囲気だ。

私たちが先人から真似てきたたぐさんの所作が、若い人々にも真似されて行くだろうことに大変満足している。展覧会は大成功であった。たぐさんの人たちの協力のお陰で、建築照明デザインという姿が日本の歴史の中に小さく刻印された。

さて、世紀末にリセットした私たちは更に先陣を切って時代を走り抜けるための力を宿しているに違いない。大改革した精神をもって新しいキャンパスに向かいたい。ちょっと今日は興奮し過ぎているかな？ちょっと恥ずかしい大げさな言葉だな。まあ、いいか。次は軽くなりますから・・・。991121 LH-711

(面出薫)

探偵団通信上では事後報告となってしまいますが、団員の方の作品の展覧会が2つありました。光に関するご自身の作品発表や、お知り合いの作品、展覧会のお知らせなどありましたら、是非事務局へもお知らせ下さい。ホームページ、メールなどでご紹介致します。



●金井一郎氏  
「かなしいちろう ひかりのかたろぐ」  
'99.12.10～12  
世田谷区北烏山にて開催  
植物を使った小さなあかり



●山田光子氏  
「第九回日本刺繍作品展 繕ごころへのたび」  
'99.10.26～31  
銀座 清月堂画廊1階にて開催  
手刺しの刺繍を入れたランプ

## ★★★投稿規定★★★

照明探偵団通信 vol.07 (次号)の原稿を募集しています。独自の照明探偵レポート、光に思う今日の日本、照明について知りたいこと、疑問に思っていることなどなど、テーマは何でも結構です。日頃ひかり、あかりなどについて思っていることや様々なレポートを照明探偵団通信に発表してみませんか。原稿の送付方法は、

●原稿をテキスト形式で保存したフロッピーを送付

●e-mailで送付

(メール上記述でも原稿テキストファイル添付でもOK)

●FAXで送付 ●郵送で送付

のいずれかをお願いいたします。また、このほかの送付方法をお考えの方は、事務局までご相談ください。

投稿お待ちしております！

照明探偵団・事務局

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-28-10 ライティングプランナーズ アソシエーツ内

TEL: 03-5469-1022 FAX: 03-5469-1023

e-mail: tanteidan@ppp.bekkoame.ne.jp <http://www.bekkoame.ne.jp/~tanteidan/>

【照明探偵団の活動は以下の27社にご協賛いただいております。】

ルートロンスカ株式会社 岩崎電気株式会社 松下電工株式会社 三菱電機照明株式会社 東芝ライテック株式会社 小糸工業株式会社 三菱レイヨン株式会社 ヤマギワ株式会社 山田照明株式会社  
小泉産業株式会社 ヨシモトボール株式会社 ニッポ電機株式会社 湘南工作販売株式会社 株式会社エルコ・トートー 日本電池株式会社 株式会社ウシオスペース 金門電気株式会社  
大光電機株式会社 日本フィリップス株式会社 株式会社通商照明 株式会社ウシオコーアック マックスレイ株式会社

## 照明探偵団日記

とうとう今年も終わりか、と思ったら、今年どころか1900年代が終わりを受けようとしているではありませんか。西暦2000年があと数日でやってくるのは、なんとも信じられない感じがします。「ミレニウム」ということで、ちまたはいろいろと騒がしくなっているようです。年末のカウントダウンやミレニウムを祝うイベントの予定が各地で目白押しです。闇ところによると、そういったイベントで使われるカラーライティングの投光器の貸し出し注文があちこちから殺到し、在庫がカラになっているとか。日付が変わるのは夜中ですし、イベントとなれば光の演出がどうしても欠かせない、というわけでしょう。今年の年末は各地で特別な光をたくさん見ることができると予想されます。

あるアンケートによると、「2000年を迎える大晦日はどこでどのように過ごしたいか」という質問では「家で家族と一緒に」が一番多かった回答だそうです。さてさて皆さん、照明探偵団としては、どのように過ごされる予定ですか？

(田中裕美子)